

対象学年

小学校高学年

時間数

5~6時間

## 当番活動 ビデオマニュアルづくり



秦安彦  
神奈川県大和市立緑野小学校

### 使用ソフト&ハード

Adobe Premiere LE  
(ビデオ編集ソフト)  
Adobe Photoshop Elements  
(イラスト作成用として)  
コンピュータ 1台  
(教室設置用)  
デジタルビデオカメラ 1台

### 身についたこと

自分たちの日常の活動を見直すことができた  
低学年の子どもたちにわかりやすく伝えるために、テーマや台詞の工夫を考えることができた  
機器操作やソフトウェア操作などを学び、映像制作の過程を把握することができた

### 実践概要

校内の身近な活動である給食当番や校内清掃、委員会活動を取り上げ、その正しい方法や見本となる活動を映像で撮影し、「低学年にわかりやすく伝えるため」の短編番組を作る。他者に伝えることで、自分たちの活動を律する意味も込めて行いたいと思った。

### 活動の流れ

#### 1 見本になる活動の映像を作ることを伝える

子どもたちに向けて、校内の当番活動の見本や学校生活の模範的な活動を伝えるための映像作品づくりを提案する。



事前に、教師側で見本となるような映像サンプルを1つ作成しておき、子どもたちに見せましょう。ただし、本実践の目的に沿った内容であることと、子どもたちが目指すべきクオリティをもったサンプル作品であることが不可欠です。

#### 2 作品の構想を練る

グループごとに映像作品の構想を練り、台本を作成する。文字だけでわかりにくい場合は、簡単なラフスケッチをして、図解入りの台本を作成する。



台本だけではなく、撮影者・実演者などの役割分担もしっかり決めておきましょう。

#### 3 掃除や委員会の活動時間に撮影をする

順次、掃除の時間や委員会活動の時間に撮影する。撮影担当者、レポーターなどになった子どもたちには事前にしっかり練習させ、短い時間内できっちりと撮影できるようにする。



基本的には三脚を用いて、ぶれない映像を心がけます。また、ざわついた中での撮影になってしまうときは、市販のマイクをビデオカメラに接続して撮影すると、クリアな音声で録音できます。

#### 4 撮ってきた映像を編集する

それほど凝る必要はないが、「映像作品」として、不要な部分のカットやタイトル画面・テロップの挿入、フェードイン・アウトなどの場面転換効果は最低限しておいてほしい。



必要な部分をビデオキャプチャするのは、かなりの時間がかかります。撮影部分をすべてキャプチャしておき、後で不要な部分を大幅にカットするようにして編集すると、時間が短縮できます。ただし、最初に全データを保存するための大容量ハードディスクが必要です。

#### 5 最終評価をし、「放送」する

「放送」の前に、撮影や編集のやり直しまでを含め、クラス内で最終検討を行う。本当に低学年の子どもたちが見て十分に作成者側の意図が伝わるか、言葉や文字は適切か、など、受け手の立場になって考えるようにする。そして、修正がすんだら、いよいよ「放送」だ。



低学年の教室を回って発表させてもらうのが一番いい方法ですが、ぜひ、校内LAN上で「作品公開」し、いつでもマウスクリック1つでオン・デマンド視聴できるようにしておきましょう。

## Information

3月27日  
(土)

D-project公開研究会

開催迫る!

今すぐ参加申し込みを!!

D-project2003、春の公開研究会がいよいよ近づいてきました。ポスターセッションの中でのミニワークショップの開催や、懇親会の中での協力企業ポスターブースなどの新機軸も盛り込んで、さらにパワーアップした研究会にご期待ください。4月からの授業に役立つヒントが、きっと見つかります。

日時 3月27日(土) 10:00~18:00(懇親会は18:30~20:30)  
会場 日本教育会館(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)  
参加費 3,000円(当日会場にてお支払いください)



## 作品例

### 給食当番マニュアル

5. かたづける

活動の映像の最後にはクイズを用意。給食当番服の正しい着方を3択にした。や×なども簡単に入れられる

## 活動の様子



台本にそって、目的の場面を撮影する



教室の1台のコンピュータを使い回し、順番に編集する

## 「映像制作」から「メディアリテラシー」の育成へ

映像制作を行うときには、やはり作品を見てもらう対象者ははっきりしていることと、テーマ設定が重要なポイントとなります。単に面白そうだから映像を作る、というだけでは、目標の定まらない散漫な取り組みになってしまいます。今回は、「低学年の児童」に対して「掃除や給食、委員会などの当番活動の正しい方法を伝える」というはっきりとした対象とテーマ設定がありました。

映像編集は、映像のカットと簡単なテロップ挿入、場面転換（フェードイン・アウトなど）の機能ぐらいが使えると十分です。教師側と一緒に作成してあげてもいいですし、高学年ぐらいの子どもたちになると、1度見本を見せれば自分たちでいろいろと試行錯誤をしていきます。あまり編集技術にこだわる必要も無く、場合によってはワンカットで撮影してしまうことも可能です。

完成した映像は、今回の実践のように、まずは学級内で「他者に作り手側の思いが正しく十分理解されるか」という点について検討しましょう。そこには、「メディアリテラシー」の育成の可能性もあります。例えば、いつも掃除をサボっている子

どもが、きちんと掃除をしているシーンをつないで作った映像は、「いいところしか伝えていない」ということになります。子どもたちの間では、「やらせだ」と騒ぐかもしれません。しかし、視聴者側は映像から伝わることで判断するしかありませんから、そう思わざるを得ません。つまり、メディアによって一方的に流される情報は、作り手の側によって「意図的に作り出されたもの」であるということを理解させるのです。そのきっかけを皮切りに、「情報を見抜く目」「メディアからの一方的な情報を批判的に見る目」を養うメディアリテラシーの学習へとつなげていくこともできるでしょう。

本実践は、「授業」として時間割に組み込むのではなくて、日常の学校生活の中で順番に掃除担当場所を回って、毎日1本ずつ撮影していくというような位置づけでも実践可能です。そうすると、1台のビデオカメラと1本の映像編集ソフトウェアを順番に使い回せばいいので、どの学校でもすぐに実践可能です。ぜひ各学校の情報整備環境や子どもたちの状況に合わせてアレンジして取り組まれることを期待しています。

D-project 統括補佐  
豊田充崇  
和歌山大学教育学部附属  
教育実践総合センター



#### 内容とスケジュール（予定）

1. 全体会（10:00～11:45）
  - 1-1 <対談> 「D-projectの目指すもの」
  - 1-2 <パネルディスカッション1> 「連画：絵のリレープロジェクト」
  - 1-3 <プロジェクト発表会1> 「デジタルコンテストプロジェクト」「マニュアル作成プロジェクト」
2. 分科会（3会場に分かれての分科会です）（12:45～14:45）
  - 2-a <子どもプレゼン> 「ユニバーサルデザインプロジェクト」
  - 2-b-1 <パネルディスカッション2> 「ユネスコプロジェクト」

- 2-b-2 <プロジェクト発表会2> 「デジタルポートフォリオプロジェクト」「友だち100人プロジェクト」
  - 2-c <ワークショップ> 「連画：絵のリレー」
  3. 実践発表会（15:00～17:00）
    - 「32本のポスターセッションおよびミニワークショップ」
  4. まとめ（17:15～18:00）
    - 懇親会 会費制（3,500円）
- プレゼント大会やポスターブースなども行います。  
詳細およびお申し込みは、<http://www.d-project.jp>をご覧ください。